

第92回福島県中央メーデー開催！！



～これまでも、そして、これからも、どうもありがとう～



連合福島は、県労福協と実行委員会を組織し、第92回福島県中央メーデーを、4月29日（木）10時30分～、福島市内曾根田の「MAXふくしま北広場」で開催した。あいにくの雨模様ではあったが、2年ぶりの式典に働く仲間が集い、コロナ感染防止対策を徹底する中、メーデーの意義とそれぞれの運動の決意を新たにしました。

冒頭、今野 泰実行委員長（連合福島会長）は、「東日本大震災・原発事故から10年の節目、この間、県民一人ひとりの苦労・努力、復興への強い決意のもと、そのトータルパワー・ポテンシャルを活かし復興創生に邁進してきた。改めて被災者への鎮魂と10年の検証、新たな決意を確認する特別な年としなければならない。全国的なコロナ感染拡大により、長期にわたる企業活動や日常生活の自粛・制限により、社会経済の混乱は未だ収束せず、国民の不安・不満は深刻化している。一方で、感染への不安や言われなき誹謗・中傷も危惧しながら、懸命に働くソーシャルワーカーの仲間がいる。これらを踏まえ3点申し上げる。

一点は、2021春闘、今春闘で賃金改善と雇用維持・創出による経済の活性化を掲げ取り組んだが、雇用・賃金の二者択一、労働組合にとっては苦渋の決断を迫られた組合も多くあり、平均賃上げは2014年以降最低水準にとどまるなど、K次型景気と所得の二極化が進展し、加えて成果報酬も仕組み強まり格差が益々拡大した。

二点目は、自民党政権のもとで、官僚制度の腐敗、私物化が政治不信をより強めている。政府の緊急事態宣言発出を始めとして、当事者責任は感じられず、国民は自粛・制限などに翻弄されながら、負担を強いられ疲労が増し、一方で感染は拡大し続けている。ワクチン接種も外交の弱さを露呈した。一日も早い政権交代が必要だ。

連合福島は、既に1区「金子恵美」、3区「玄葉光一郎」、4区「小熊慎二」、5区「鳥居作弥」予定候補、と政策協定を結んだ。自らの意志と行動で、生活を、社会を変えることを確認したい。

三点目は、DO・モーバジプロジェクトについて、2011年3月11日から福島県、福島県民は全国、世界から励まされ、勇気づけられた。多くの犠牲や苦労により復興が進む中、私たちは学び、特に「感謝」の言葉は一人ひとりに刻まれた。今、コロナ感染拡大により奮闘する仲間、孤独に苛まれる仲間に敬愛と友情を示し、励ましを伝えること。それは、犠牲・苦労からの学びの行動であり、多くの方の恩義に報いることに他ならない。是非、メッセージカードで、皆さんの「ありがとう」を伝えていただきたい。」と挨拶した。

続いて、来賓として①内堀雅雄福島県知事、②木幡 浩福島市長、③金子恵美立憲民主党福島県総支部連合



挨拶する今野会長



祝辞を述べる内堀雅雄 知事



立憲民主党福島県総支部連合会
代表 金子恵美 衆議院議員



福島県議会県民連合会
副代表 紺野長人 県議会議員



木幡 浩 福島市長

代表、④紺野長人県民連合副代表をお迎えし、それぞれから祝辞をいただいた。さらにメーデー宣言を決議したのちに、今野実行委員長から内堀知事と木幡市長に手交を行い、それぞれから力強い意向表明があった。また、あなたの「ありがとうの手紙コンクール」の小学生の部・中学生の部・高校生の部・一般の部の各部門の最優秀賞に輝かれた以下の皆様への表彰式も挙行、賞状の授与を行った。尚、すばらしい作品は参加者に配布し、紹介した。

★小学生の部★	『私が贈る「どうもありがとう」の手紙』	羽田 実優さん
★中学生の部★	『自慢の母へ』	関根 奈央さん
★高校生の部★	『どうもありがとう』	小堀 夢月さん
★一般の部★	『同窓会のマドンナへ贈る「どうもありがとう」』	青山 邦夫さん



参加者全員で力強く『ガンバロー』三唱」！！

最後に、今野実行委員長のガンバローの音頭に合せ、参加者が一斉に傘を天空に掲げ、心をつにした。

引き続いての第二部では、各労働組合が創作されたプラカードの審査発表、表彰が行われ、以下の労働組合が見事選ばれた。

◎最優秀賞	福島市職労（自治労）
◎優秀賞	福島交通労組（私鉄総連）
◎第3位	国見町職労（自治労）
◎第4位	日東紡労組（UAゼンセン）

尚、広場尚では、JAふくしまの協力を得、地産品即売の参加者還元が行われた。



参加者の皆さん



地産品の即売